あ　な　た　と　市　政　を　む　す　ぶ

広報 No.240

# かんおんじ

2025／令和７年　10　October

観音寺市は合併２０周年

## 未来もずっと、この街で。

# 未来もずっと、この街で。

平成17（2005）年10月11日に当時の観音寺市、大野原町、豊浜町の1市2町が合併して新たな観音寺市が誕生し、20年が経ちました。合併当時、人口6万6439人でスタートした新観音寺市は、令和7年9月1日時点で人口5万5688人と、20年で1万人以上減少しています。2045年には市内の4割が65歳以上となり、人口減少・少子高齢化の進行が見込まれます。今後、限られた財源の中で、皆さんが安心して暮らしていけるまちづくりをしていく必要があります。

**未来もずっと、この街で。**

合併20周年記念特集では、観音寺市に新たな価値を作ろうとしている皆さんを中心にお話を聞きました。観音寺市が皆さんにとって住み続けたいと思える場所、自慢のふるさとであり続けるために何ができるか、これからも皆さんと一緒に考え、行動していきたいと思います。

## 20年のあゆみ

**2005年（平成17年）**
- 観音寺市・大野原町・豊浜町が合併し、新観音寺市誕生
- 観音寺市長に白川晴司氏が就任

**2006年（平成18年）**
- 五郷小学校が閉校
- 観音寺市豊浜総合体育館（すぽっシュTOYOHAMA）が完成
- のりあいバス運行開始
- 豊稔池堰堤が重要文化財に指定

**2007年（平成19年）**
- 日本学生トライアスロン選手権観音寺大会が初開催
- 山田産業団地分譲完了

**2008年（平成20年）**
ごみ処理の民間委託を開始

**2008年（平成20年）**
ふるさと納税による寄付受付開始

**2009年（平成21年）**
燧望苑（斎場）が完成

**2010年（平成22年）**
- 伊吹小・中学校が併設校へ
- 子ども医療費助成の対象年齢を15歳に拡充

**2011年（平成23年）**
一の宮公園にイサム・ノグチの遊具彫刻22基完成

**2012年（平成24年）**
観音寺競輪が開催終了

**2013年（平成25年）**
- 市民会館が閉館
- 瀬戸内国際芸術祭が伊吹島で初開催

**2014年（平成26年）**
- 観音寺南・観音寺東小学校が閉校
- 観音寺・高室・常磐幼稚園が閉園
- 観音寺小学校、観音寺幼稚園、観音寺保育所が開校・開園・開所

**2015年（平成27年）**
- 萩原・紀伊小学校が閉校
- 市役所新庁舎が完成、業務開始
- 「大野原古墳群 椀貸塚古墳 平塚古墳 角塚古墳」が国の史跡に指定

**2017年（平成29年）**
- 新市民会館が完成
- 子育て支援センター「ほっとはうす萩」が開設（旧萩原小学校）
- 伊吹島に防災ヘリポートが完成



## 未来へ向けて、一緒にチャレンジし続けていきたい

観音寺は合併20周年の節目を迎えました。先人たちがこれまで築き上げてきた歴史と功績に感謝するとともに、このまちをしっかりと守り続けていかなくてはならないと思います。市民の皆さんが夢や誇りを持てるまち、若い人が進学などで一度地元を離れても、また帰って来たくなるような魅力あるまちであるためには、観音寺市にたくさんの人を呼び込み、にぎわいを作ることが必要だと考えています。そして、子どもから高齢者まで全ての人に優しさと思いやりのあるまちでありたいと思います。そのために、これからも皆さんと一緒にチャレンジし続けていきます。観音寺市のために、共に前に進んでいきましょう。

観音寺市長　佐伯 明浩

## 「未来もずっと、この街で。」市民の皆さんの思い

ーずっとこの街で住み続けたい
ー私の大好きな観音寺をもっと人が集う街にしたい
ー20年後、30年後もずっと住み続けたいと思える街であって欲しい
ー今と変わらない未来をこの先もこの観音寺で過ごせていけたら良いな
ー観音寺市の良い伝統がこれからも受け継がれていくように願いたい
ー生まれも育ちも観音寺なので、未来も観音寺で
ーやはり観音寺市民は観音寺を愛しています。
未来もずっともっと繁栄していってほしいと思います
ー子どもたちにも生まれ育った自慢の観音寺の想いをつなぎたい
ー20周年だけでなく、いつまでも観音寺市に住んで、未来までも繋がっていける市に

（観音寺市合併20周年記念キャッチコピー投票アンケートから抜粋）

次のページから、市内で新たな活動をする皆さんを紹介します！

**2018年（平成30年）**
- 郷土資料館「ふるさと学芸館」が開館（旧紀伊小学校）

**2019年（平成31年・令和元年）**
- 柞田・豊田・一ノ谷幼稚園が閉園
- 観音寺中央幼稚園が開園

**2020年（令和2年）**
- 伊吹観音寺航路定期船「NEW IBUKI Ⅱ」完成
- 凪瀬町を新設（県埋め立て事業）
- 手話言語条例とコミュニケーション条例が施行
- 観音寺スマートインターチェンジ新規事業化決定

**2021年（令和3年）**
- 観音寺保育所閉所、観音寺こども園が開園
- 伊吹観音寺航路が民営化
- 観音寺市長に佐伯明浩氏が就任

**2022年（令和4年）**
- パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度開始
- 大野原保育所閉所、大野原こども園が開園
- 市内全13地区に第2層協議体が発足（H29～）

**2023年（令和5年）**
- 子ども医療費助成の対象年齢を18歳に拡充
- 観音寺市電子地域通貨「銭形Kコイン」を開始
- 新「道の駅」かんおんじ(仮称)基本構想を策定

**2024年（令和6年）**
豊浜保育所閉所、豊浜こども園が開園

**2025年（令和7年）**
- 五郷地区のりあいタクシー実証実験を開始
- 新「道の駅」かんおんじ(仮称)基本計画を策定
- 観音寺市学校給食センターが完成
- 市町合併20周年

## 「地元で音楽フェスがしたい」という夢を実現
## やりたいことをやってみる人が増えれば、まちは活気付く

９月14日、有明グラウンドで野外のロック・フェスティバル「銭形ロックフェス」が開催されました。企画したのは市内で生まれ育った３人の元バンド少年。高校時代に市民会館やライブハウスで演奏し、「いつか地元で大規模の音楽フェスがしたい」という夢を持っていました。卒業後は地元や都会でそれぞれの道を歩んでいましたが、地元を離れた仲間も観音寺に戻り、3人で音楽フェスをやろうと動き出したのがこの３月。短期間で準備を進めてきました。

「一番大変だったのは、アーティストへの出演交渉です。実績がないために、最終的に事務所から出演を断られることは、やはりきつかった。次回は出演したいという声をいただいたので、来年以降も継続して開催したいです」と豊田さんは話します。

３人だけでは資金面含め限界があるため、知人や地元企業の代表者に自分たちの思いを伝えて協力を呼び掛けると、多くの人が応援してくれたそうです。

「地元企業の社長さんに『思いを聞いて、鳥肌が立って涙が出そうになった。自分は何したらいい？』『お前らが頑張るんなら協力するよ』と言われたときはうれしかったです。でもこれは、自分の祖父母や両親が築き、僕につないでくれた、地域の人との信頼関係のおかげだと思います。僕も自分の子どもに同じようにつないでいきたいと思いました」と白川さんは言います。

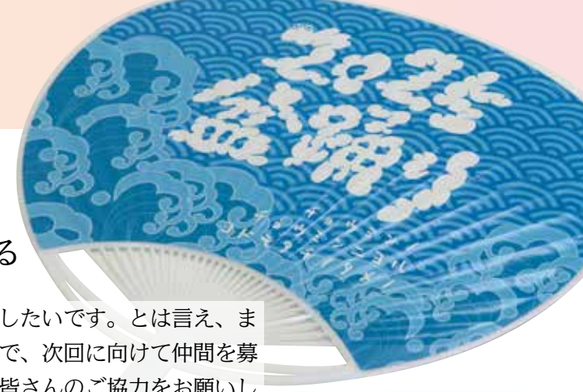
卒業後に東京で起業した豊田さんは、都会で感じた、思いを持って行動する人の熱量が地元にも欲しいと思っていました。

銭形ロックフェス実行委員会　（写真左から）
豊田 亮さん　白川 裕也さん　真鍋 隆之さん

「地元の人に、人の熱量やエネルギーのすごさを感じて欲しい。だから、僕たちの音楽フェスは観音寺でやらないと意味がないんです。自分のやりたいことがあってもやらない人が多いですが、やってみるのって意外と簡単で、やると決めたらいろんな人が助けてくれます。僕たちが銭形ロックフェスをやることで、『やっていいんだよ』というのを見せたかった。これをきっかけに、自分のやりたいことをやってみる人が増えていけば、まちは活気付くと思います」。

最後に３人は口を揃えてこう話します。

「まずは、自分たちが楽しむことが一番。それが誰かのためになっていたら最高です。観音寺というポテンシャルのあるまちを、多くの人に知ってもらいたいです」。



## 20年ぶりに復活した盆踊り
## 集まる場所さえ作れば、地域は盛り上がる

町民運動会、盆踊り、苗手の火祭り、キャンプ。僕が子どものころには、人が集まる場所がたくさんあって、近所の人との距離が近かったと思います。時代とともに、人との距離が遠くなり、「体温」を感じにくくなっていると感じていました。令和の時代を生きる子どもたちに足りていないのは、人の温度じゃないか、老若男女が集まって同じ動きをする盆踊りっていいんじゃないかと思ったのが２年前。町内23地区の「太鼓青年」に声を掛け、７地区51人がスタッフとして協力してくれました。８月23日の盆踊り当日は１５００人くらいが来てくれて、友達の母さんとか普段会えない人に会えたことがうれしかったです。盆踊りだから出てきてくれたのかなと思い、参加型のイベントっていいなと感じました。開催後の打ち上げで、スタッフから満場一致で「来年もやれ」「めちゃくちゃ好評だった」と言われたので、来年はもっとアップグレードして開催したいです。とは言え、まだまだ微力なので、次回に向けて仲間を募集しています。皆さんのご協力をお願いします。

僕は、休日に昔の通学路や車で通れないような路地を１時間くらい自転車で走るようにしています。懐かしい一方、活気がない様子を見て、「このまま死んでいくんかな、このまち」と寂しさを感じます。豊浜町は４年前に過疎地域に指定されました。そのことを盆踊り会場入口の看板にあえて書きましたが、それに気付いた人が何か自分で行動してくれたら最高ですね。

毎年、秋祭りには「普段一体どこにおるんや」というくらい人が出てきて集まるように、集まる場所さえ作れば、皆ワイワイと盛り上がってくれます。人に活気がないと、まちに活気はありません。地域を盛り上げたい人は多いので、自由に使える場所と使いやすいルールがあれば、もっと人は観音寺に集まって来ると思います。

豊浜町盆踊り実行委員会
代表 出濱 鉄也さん

豊浜町盆踊り有志の会のメンバーを随時募集中！
参加条件は豊浜町在住の人（年齢不問）。
<問い合わせ先>
umios.（出濱さん）
☎23-7717

# 合併20周年記念特集

## 「未来もずっと、この街で。」

### 角野 由佳さん（元地域おこし協力隊／蔵音オーナー）
## 私にとって、日本で一番良い所

豊浜駅を拠点にした地域おこし協力隊の活動では、駅構内の「HOME（ホーム）」と名付けたお店でさまざまなイベントを企画し、市内外の多くの方々と知り合いました。

当初から移住を念頭に置いていたので、空き物件を探していたところ、お米屋さんの蔵だった建物に出会いました。

HOMEで出会った仲間たちと改装し、観音寺の「音」の字を入れて「蔵音（くらのね）」という店名を付けました。豊浜駅で、外国人のお遍路さんを毎日見かけており、外から来るお客さんの受け皿になればとカフェ兼イベントホールと宿を始めましたが、ありがたいことにカフェは連日満席、宿もほぼ毎日予約があり、やはり観音寺は遊びや観光に適した地だと実感しました。今後は庭を改修し、近隣のシェフやカメラマン、衣装屋さんなどに協力してもらってガーデンウェディングができるようになればと考えています。私は移住先として日本やアジアの各地を探してきましたが、西讃地域は私にとって、日本で一番良い所です。海、山、島の景色は本当に素晴らしくて、毎日感動しています。観音寺らしさは大切に守りつつ、多くの人に魅力に気付いてもらえるまちになっていって欲しいです。

### 小原 祐一さん（元地域おこし協力隊／BAR KNUTオーナーシェフ）
## 観音寺に洋食の文化を伝えたい

地域おこし協力隊の活動を通して、大野原町五郷地区の皆さんはもちろん、いろんな分野の方々とのつながりができました。「BAR KNUT（バルクヌート）」を開き、１年半が経ちました。料理は塩や調味料からこだわり、米や野菜、コーヒー豆や茶葉も無農薬か低農薬の地元産を使っています。本当は居酒屋のようなメニューを出せばもっとお客さんが来ることは分かっていますが、観音寺に洋食の文化を伝えたいので、あえて貫いてやっています。観音寺を離れた人が帰省したときに「観音寺にもこんないいお店あるんや」と言ってくれるような自慢の店になったら良いなと思います。父が転勤族だったので、私は都会暮らしが長かったですが、小さい頃はお盆や正月に祖父の住む観音寺に来て楽しい時間を過ごしていました。きれいな砂浜が残り、夕日が海に沈む美しい自然と人の温かさが観音寺の魅力で、自分がいるべき場所はここだと思います。今後は、飲食業が落ち着けば、キャンプの資格を生かして災害時に役立つ自主防災のスキルを多くの人に伝えていきたいと思っています。

### 小西 弘恵さん（テキスタイルデザイナー／grasspool代表）
## デザインを通して、地域に貢献したい

京都の芸術大学に進学し、京都を拠点にデザイナーとして仕事をしていましたが、2019年に観音寺に帰ってきました。周りの人に、「なんで帰ってきたん？何もないよ、ここは」とよく言われました。デザインの仕事は好きですが、それだけでなく、仕事を通じて役に立てる人、貢献できる人になりたいと考えたとき、地元の観音寺でやりたいと思いました。

都会に比べると、地方ではデザインやブランディングに重要性を感じていない方も多く、仕事する上でシビアだと感じることもありますが、だからこそ伸びしろ、やり甲斐はあると思います。香川に住んでいる時は、香川が良い場所かどうかを考えることもなかったですが、外を見たからこそ、「ここは良い場所だ」と説得力を持って伝えることができます。

２年前から、香川の風景をデザインした「さぬきテキスタイル」というシリーズを始めたのは、地元の人に、香川の良さに気付いて欲しかったからです。イリコや松、しょうゆ豆など、香川の人なら分かるモチーフをあえて抽象的にデザインして、「これって何？」とコミュニケーションのきっかけになれば良いなとも思います。

京都にいる時は、結果を出したい、褒められたいと自分のことで必死でしたが、地元に帰って来たら肩の荷が下りて、誰かのために仕事をしようという意識に変わりました。自分が住んでいる場所を「ここは良い場所だ」と思える人が増えていけば、人が価値になり、地域はもっと良くなる。デザインはその手助けができると思うのでこれからも、この場所で地域のデザインを続けていきたいと思います。

# 夢はオリンピックで金メダルを獲得すること

三好 初音さん（観音寺総合高等学校1年）
「新体操日本代表フェアリージャパン」団体メンバー

８月23、24日にブラジル・リオデジャネイロで行われた世界新体操選手権大会の団体で日本が史上初の金メダルを獲得。日本代表「フェアリージャパン」の最年少メンバーとして出場した三好初音選手にお話を聞きました。

１位になった瞬間は喜びよりも信じられない気持ちでした。家族や所属チームの先生と仲間、違うクラブのメンバーなど、たくさんの人たちがおめでとうと言ってくれてうれしかったです。昨年12月に日本代表に選ばれてからは、東京のトレーニングセンターで日本代表メンバーと合宿しながら、朝から晩まで厳しい練習を続けてきました。現在は帰省し、所属チームで平日は３時間、土日は朝から夕方まで練習しています。学校が早く終わった日は、「早く練習したいです」と先生に言うくらい、練習が好きです。10月に来年の日本代表のトライアウト（選考）を受ける予定なので、まずはそれに合格してまた団体メンバーになり、次回のオリンピックの出場枠を取りたいです。東京で生活しているとホームシックになりますが、観音寺に帰ってきて家族や先生と会い、普通の学校生活を送っているとホッとします。今回のトライアウトに合格したら、また地元を離れることになります。つらいですが、上をめざすためにはやるしかないです。夢は2028年のロサンゼルスオリンピックに出場し金メダルを獲得することです。

１日目の団体総合金メダルに続き、２日目は種目別決勝リボンで銀メダルを獲得しました。写真左端が三好選手（写真提供：日本体操協会）

新体操は曲に合わせて体全体で表現する競技。ダンスステップのときの見せ方など、一つひとつの表現を見て欲しいと三好選手は話します





## あなたがいるから、観音寺市

観音寺市に暮らす皆さん、市外から仕事や学業のために通っている皆さん、観光などさまざまな目的で市内を訪れる皆さん。皆さん一人ひとりがいるからこそ、観音寺市は市町合併20周年を迎えることができました。観音寺市が住みやすいまちであるために、皆さん一人ひとりの力が必要です。自分がまちのためにできることを考え、少しだけ行動してみませんか。例えば、「笑顔であいさつする」「市内のお店に行く」「地元のお祭りやイベントに参加してみる」ことも立派なまちづくりの一つです。未来へ続いていくまちにするために、これからもよろしくお願いします。

# みんなで作り上げるおばけ屋敷が、子どもたちの心を楽しく鍛える

観音寺市子育て支援センター「ほっとはうす萩」

もともと体育科の教員だったこともあり、子どもたちの心を楽しく鍛える行事をしたいと考え、「おばけ屋敷」をすることにしました。より怖いおばけ屋敷にするべく、〝生おばけ〟を導入することに。地域の方や市内中学校に声を掛けるとたくさんの方が参加してくれました。みんな協力的でいい人ばかり。また、香川高等専門学校詫間キャンパスの森宗太一郎先生が萩原出身という縁もあり、２年目から学生と一緒に動く仕掛け作品を提供してくれています。高松からもお客さんが来てくれ、毎年完成度が上がっているとお褒めの言葉を頂くとうれしいです。子どもは成長し、遊びに来る子は入れ替わっていきますが、久しぶりに来た子同士が同窓会のような雰囲気になっているのを見るといいなあと思いますね。センター長として９年目、今後も地元の力になれたらと思っています。

子育て支援センター
「ほっとはうす萩」
山本 忠由センター長

**開館から８年で来館者20万人目前！**

平成27年に、統合により閉校した萩原小学校の校舎を活用し、平成29年に市子育て支援センター「ほっとはうす萩」がオープンしました。開館から８年経ち、来館者はことし９月に20万人に達しました。

子どもたちに昔ながらの夏を体験してもらおうと、平成30年から始めた手作りのおばけ屋敷には、これまで観音寺第一高等学校や観音寺総合高等学校、大野原小・中学校の生徒がお化け役などで参加してきました。ことしも７月31日から８月10日まで開催され、香川高等専門学校詫間キャンパスの生徒の動く仕掛けを設置し、市内中学校の美術部員や大野原絵画教室の先生が作品を設置、市内中学校の生徒がお化け役で活躍。10日間で1,457人が来場しました。回を重ねるごとにメディアからも注目を集め、2022年度には日本子育て制度機構からベスト育児制度賞を受賞しています。

おばけ役に初挑戦した中部中学校美術部員の皆さん。ベテランおばけ役の地域の人から演技指導も受けました

香川高等専門学校電子システム工学科の森宗准教授は、「限られた条件の中で、可能な限り驚いてもらえるような作品を提供したいという思いで携わっています。大変なこともありますが、お世話になった地元に少しでも貢献できたらと思っています」と話します